収穫への感謝と願い込め

10月12日 ずいきみこし巡行

収穫への感謝と五穀豊穣を願う御園神社秋祭が10月12日、上奈良地区で行われ、地域住民たちが「ずいきみこし」を担いで同地区内を練り歩きました。

「ずいきみこし」は、奈良時代にサトイモの茎（ズイキ）などの野菜を朝廷に献上していたことにちなんで作られたとされています。同地区の老人クラブ「御園クラブ」がズイキで屋根をふき、三度豆やミョウガなど、その年に収穫した約30種類の野菜を飾り付けて、毎年組み立てています。

法被姿の子どもや担ぎ手たちは、同地区内を巡行した後、高張り提灯に先導され、上奈良公会堂から神社に向かいました。

神社前では、天狗の面をつけた子どもによる「王の舞」と若者2人による「獅子舞」を交互に2回ずつ奉納。

「獅子舞」では、獅子の口を閉じるときに鳴る音の大きさで収穫の程度が占われるとされています。若者2人がすり足で3歩前進し、獅子の口を閉じると、「パンッ」と大きな音が境内に鳴り響き、見物客や担ぎ手たちから大きな拍手が送られていました。

ずいきみこしを担ぐ担ぎ手たち

見物客に見守られながら奉納される「獅子舞」

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

夢先生から夢を学ぶ

中河さんと作戦会議を行う児童たち

夢を持つことや仲間と協力することの大切さを学ぶ「夢の教室」が10月15、16日、5年生を対象に美濃山小学校で行われました。

日本サッカー協会主催の同教室は、スポーツ選手らを「夢先生」として小学校に派遣して実施されています。初日には、元Jリーガーの中河昌彦さんが訪れました。

体育館での授業では、二人で手を繋いでいればタッチされないルールの鬼ごっこを、児童たちが20秒逃げ切ることを目標に行われました。人数が奇数なので、なかなか逃げ切れませんでしたが、作戦会議を行い、手を繋いだ二人組全員で一人を囲んで守る作戦を考え、みんなで協力して目標を達成しました。

その後は教室に戻り、中河さんが夢をテーマに授業。学生時代のレギュラー争いや現役時代の大きなけがを乗り越え、「プロサッカー選手になり、レギュラーとして試合に出る」という夢を叶えた経験から、「夢は何をしないといけないかを考えて努力すれば叶うので、絶対に諦めないでください」と児童たちに訴えていました。

ふれあいながら優勝目指す

第36回八幡市障がい者スポーツ大会

障がい者の相互交流と市民とのふれあいを深めようと「第36回八幡市障がい者スポーツ大会」が10月18日、市民体育館で開催されました。

市主催の同大会は、市内のボランティア団体などに協力を呼びかけて毎年行われており、今年は155人が参加しました。

紅白の2チームに分かれた参加者たちは、「ボールリレー」や「紅白綱引き」、「パン食い競走」など、7種目に挑戦しました。

今年から取り入れられた新種目の「新聞破り競争」では、参加者たちは広げられた新聞に向かって走り、勢いよく破いてゴールへ一直線。

最終種目の「紅白玉入れ」では、優勝を目指す参加者たちがかごに向かって次々とボールを投げ入れ、競技を楽しみながらも最後まで熱戦を繰り広げていました。

綱引きをする参加者たち

インターハイ優勝を市長に報告

西城陽高3年 平松祐司選手

金メダルをかけて堀口市長と握手を交わす平松選手

8月2日に山梨県で行われた平成26年度全国高等学校総合体育大会の男子走高跳で、西城陽高校3年の平松祐司選手（男山東中学校出身）が優勝し、9月26日に市役所を訪れ、堀口市長に報告しました。

中学時代はサッカー部だった平松選手は、高校で陸上に転向。顧問の金見紀宣先生による平松選手の跳躍の感覚はそのままに、跳躍に必要な筋力を鍛える指導方針の下、1年のときから全国大会に出場し、記録を伸ばしてきました。

インターハイ当日、平松選手は余力を残した状態で予選通過記録をクリアできたことで、「全力を出せば、かなりの記録が出る」と自信を持っていました。その思い通り、決勝では自己記録を7㌢更新する2㍍19を跳び、見事に優勝を飾りました。

平松選手は「優勝は素直にうれしいです。今後は、大学での4年間で陸上にしっかり取り組んで、東京オリンピックを目標に頑張りたいです」と、まっすぐな眼差しで話していました。

また、平松選手は10月20日に長崎県で行われた長崎がんばらんば国体の少年男子走高跳でも優勝し、高校二冠を達成しました。